

ミツバチを利用した半促成ナスの着果促進技術体系の開発

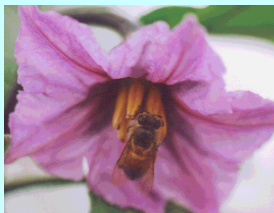
半促成ナス栽培における訪花昆虫の利用

マルハナバチ
(県内普及率 70%)

利点: 安定した訪花活動

問題点

環境への悪影響



(ナスへのミツバチの訪花)

ミツバチ

(県内普及率 10%)

利点: マルハナバチより安価

1作10a当たり

マルハナバチ 50,000円

ミツバチ 15,000円

問題点

- ・不安定な訪花活動
- ・不安定な群の寿命

代替技術として
ミツバチの利用
を期待

従来からの問題点

- ・低温期のホルモン処理作業の労力負担
- ・半放任整枝による樹の繁茂
→ 花質の低下
樹形内部への訪花性低下

研究課題

- ★ミツバチの安定利用技術の開発
 - ・訪花特性の解明
 - ・誘導技術の開発
 - ・長期維持管理技術の開発

研究課題

- ★ミツバチを利用した省力高生産技術の開発
 - ・導入時期前進化技術の開発
(低温期の花粉稔性の確保)
 - ・高生産性草姿管理技術の開発

簡易な保温技術の開発
整枝方法の開発 etc.



ミツバチのフェロモン剤の利用
ミツバチの学習能力の利用
給餌方法の開発 etc.

効果

- ・ホルモン処理期間の短縮
- ・草姿改善による花質維持A品率の向上

効果

- ・速やかで安定した訪花活動
- ・群の長寿命化 → 経費削減

マルハナバチの代替技術としてのミツバチの安定利用